教職支援室便り（７月号）

平成３０年７月１３日（金）
文責：教職支援室　曽我文敏
☎０９８５－２０－４８０８

教員採用試験始まる！

教員採用試験が始まりました。千葉県、神奈川県などの自治体については、すでに実施されました。今後、本学の学生の皆さんが受験する自治体の日程は次の通りです。

○　千葉県・・・・７月８日（日）
○　神奈川県・・・７月８日（日）
○　宮崎県・・・・７月１４日（土）、１５日（日）
○　鹿児島県・・・７月１４日（土）、１５日（日）
○　大分県・・・・７月１５日（日）
○　沖縄県・・・・７月１５日（日）
○　福岡市・・・・７月１５日（日）
○　愛知県・・・・７月２１日（土）

また、受験倍率については、宮崎県の状況を紹介します。

受験教科・科目等	応募者数	採用予定数	倍　率	昨年度最終倍率
小学校教諭等	４２７	２２３	１．９	２．８
小学校教諭等　　英語	７	５	１．４	１．８
中学校教諭等　　英語	７９	１０	７．９	８．３
高等学校教諭等　英語	４０	３	１３．３	７．３

小学校教諭等１．９倍、小学校教諭等英語１．４倍については、相当に低い倍率となっていますが、中学校教諭等７．９倍は例年通り、また高等学校教諭等１３．３倍は、例年より厳しい倍率になっています。他の自治体では、昨年度より倍率が低くなっているところもありますが、狭き門であることは変わりません。本学の学生の皆さんの奮起を期待しています。

学校現場体験活動と教員採用試験

新聞報道によると、大阪市教育委員会は２０２０年度の教員採用試験から、ボランティア経験を加点するということです。学習支援を行う場への学生の参加を促し、実践的な経験を積んだ人を採用することがねらいです。

教育実習の期間は３週間程度であり、これだけの学校現場体験だけでは教員採用試験を突破することは難しくなるかもしれません。現在、学校現場には多くの問題・課題があり、それらへの対応力を少しでも付けておくことが重要となります。これからの採用試験においては、即戦力となり得る優れた人材を求める傾向が強くなると考えます。

実際に採用試験の面接などでは、学校現場の具体的な問題場面を想定した対応の在り方を問う試問が多くなっています。このような傾向に対応するには、やはり学校現場体験を多く積んで、実践的に学んでいくことが必要です。特に二次試験においては、学校で臨時講師等として勤めている受験者の方が有利になると考えられます。

教職を目指す本学の学生の皆さんも、これらのことを十分に認識し、学校支援ボランティアへ積極的に参加してほしいと思います。

なお、７月１３日現在、本学の学生の皆さんが参加する（している）学校現場体験活動は、次の通りです。

【学校支援ボランティア】・・・３年生　６月～３月週１コマ　英語授業補助

○　宮崎市立大宮中学校・・・・・４名　　○　宮崎市立宮崎東中学校・・・・３名

○　宮崎市立宮崎西中学校・・・・２名　　計　９名

【宮崎西中学校　英語検定面接練習ボランティア】６月下旬実施

○　１年生・・・２名　　○　２年生・・・１名　　○　３年生・・・３名

○　４年生・・・２名　　計　８名

【スクールトライアル】

○　２年生・・・１６名

前期の教育実習終わる

前期に計画されていた教育実習が、６月末にすべて終了しました。３週間の教育実習の中で、学生の皆さんは多くのことを学んだようです。教師としての資質、学校現場の問題や課題、生徒理解の難しさや良さ、授業の難しさや成就感、教師志望の更なる情熱など体感したことは、これからの教師人生において大いに生かされると思います。今の感動を忘れることなく、教員採用選考試験の難関を突破してほしいと願っています。

学生の皆さんの教育実習の感想を紹介します。

○　３週間の教育実習を終えて、大変なこともありましたが、楽しいことの方が多かった実習でした。６年ぶりに母校を訪れ、子どもたちと一緒に遊び、勉強して過ごした３週間は教員になってからも、何度も思い返すと思います。この経験で得られた感動を胸に、教員採用試験に向けて精一杯頑張っていきたいです。

○　３週間教育実習を行わせていただき、ありがとうございました。この３週間を通して、学校現場でしか経験することのできない貴重な時間を過ごすことができたと同時に、様々なことを学ぶことができました。そして、「教師になる」という幼いころからの夢を、更に明確なものとすることができました。自分の夢を達成することができるよう、今後も一生懸命勉強に取り組んでいきます。本当にありがとうございました。

○　今回の実習を経験し、教師になりたいという思いが、更に強くなりました。その理由として、２つあげられます。まず、生徒が本当にかわいいと思えたことです。３週間の中で、生徒一人一人の良さに気付いたこと、授業に行くと喜んでくれたこと、廊下などで話しかけてくれたことなど、とても嬉しかったです。次に、授業をして楽しいと思ったからです。最初はもちろん失敗をし、悩む日々もありました。けれど、授業の感想として「楽しい」、「分かりやすい」と言ってくれる生徒がいて、とても励みになりました。最初は、実習に対して焦りや不安が多かったですが、行ってみると教師の仕事に対して「やりがい」を感じました。どんなに忙しくとも、生徒がいるからこそ、頑張れると感じた３週間でした。

○　３週間の実習を通して、より一層教師になりたいという気持ちが高まりました。先生方の働かれている姿を見て、生徒のために一生懸命になり生徒とともに成長する素晴らしさを体感することができました。この３週間の教育実習をしっかりと振り返って、今後に生かしていきたいと感じました。

○　私は、教師という仕事に就く人達は、思いやりの心をもった素晴らしい方々がたくさんいらっしゃることに気付きました。これは実習生と教師という関係性だけに関わらず、教師同士でも見ることができました。生徒と教師の間だけではなく、同僚の方々にも気遣いをされている姿に感動しました。先生方がお互いに思いやりをもって仕事をされることにより、温かみのある職場環境がつくられ、それが生徒への指導につながっていくと感じました。この経験を胸に、自分の夢の実現に生かしていきたいと思います。

道徳の教科化に思う！（シリーズその１４）

昨年６月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方について掲載しています。今回は、その１４として「道徳授業構築の『拠り所』３～道徳授業づくりの具体論～発問及び発問構成の在り方」についての資料です。

「道徳授業構築の『拠り所』３～道徳授業づくりの具体論～発問及び発問構成の在り方」

道徳授業では、特に展開前段において「ねらい」に迫るためのシナリオのある発問構成が求められます。シナリオのあるとは、授業者の明確な意図があるということです。授業者は、発問ひとつひとつに意味付けをして、それらを相互に関連させながら、「ねらい」への迫りを構想しなければなりません。その際、児童生徒の思考の流れをしっかりと予想することが重要となります。

発問としては、基本（中心）発問が軸となりますが、これだけでは「ねらい」に迫るための発問構成とは言えません。基本（中心）発問を有効なものとする補助発問が必要です。補助発問により、基本（中心）発問が相互に関連性をもち、発問が構成されることになります。

１　心をゆさぶり、自己を語らせる補助発問

価値を実現できない主人公の姿、思い悩む主人公の姿を通して、児童生徒の心をゆさぶり自己を語らせる中で多様な考えを引き出し、人間としての「弱さ」に気付かせます。主人公の生き方を自分との関わりの中で考えさせることにより、児童生徒の中に主人公への強い共感が生まれます。

【補助発問例】

○　「人はみんなそのような考えをもつのでしょうか。」
○　「そんなことでよいのでしょうか。」
○　「人として、あまりに寂しいことではないですか。」
○　「主人公を許してやることはできませんか。」
○　「主人公の考えについて、あなたはどう思いますか。」
○　「主人公の考えは、あまりにも勝手ではないですか。」
○　「当然、～しないといけないのではないですか。」
○　「あなたが主人公をかばうのは、どんな気持ちからですか。」
○　「人はみんな、そんなところがあるのではないですか。」
○　「主人公の考えには、どんな気持ちが隠されているのでしょうか。」

２　価値を把握させる補助発問

価値を実現できた主人公の姿を通して、児童生徒に人間尊重の精神に基づいた価値観に気付かせ、人間としての「強さ」を感得させます。ねらいとする価値を把握させる中で、その価値を多面的・多角的に捉える力を育てます。

【補助発問例】

○　「主人公をそこまで突き動かしたものは、何だったのでしょうか。」
○　「主人公を乗り越えさせたものは、何だったのでしょうか。」
○　「主人公の心の底には、どんな気持ちや考えがあったのでしょうか。」
○　「主人公からどんなことを学びましたか。」
○　「主人公へ言葉をかけてあげてください。」
○　「人はそこまで強くなれるものなのでしょうか。」

○　「人はそこまで優しくなれるものなのでしょうか。」
○　「人はそこまで頑張れるものなのでしょうか。」
○　「（例・誠実に生きる）とは、どのようなことなのでしょうか。」
○　「（例・思いやり）とは、どのようなことなのでしょうか。」

１、２の補助発問により、児童生徒同士さらには教師と児童生徒が自己の価値観を語り合う道徳授業となります。これらの補助発問が効果を発揮するような日頃からの授業づくりが大切であり、教師の学級経営力が求められます。

３　発問例「資料名　手品師」

(1)　資料内容

腕はいいが、あまり売れない手品師がいた。ある日、しょんぼりとしている少年と出会う。そこで手品師は、少年に様々な手品を見せる。二人は仲良しになり、明日も手品を見せる約束をして別れる。

その日の夜、友人から大劇場での出演の話を聞かされる。少年と約束した日と同じ日であることから、手品師は悩みに悩むが、最後は大劇場の出演を断り少年との約束を守る。

(2)　ねらい

自己の利害のために、自他を偽ってしまう人間の弱さにふれながら、常に誠実に生活することは自他を大切にした生き方であることに気付かせ、心のこもった言動で明るく生活しようとする道徳的心情を育てる。

(3)　展開前段の発問例

○　補助的発問

主人公の心が揺れ動いたところはどこでしょう。

○　基本発問１

手品師が少年と出会った日、二人の心の交流について考えましょう。手品師は、少年にどんな思いをもったのでしょう。

○　基本発問２

友人から大劇場への出演の話を聞いたとき、手品師はどんなことを考えたでしょう。みんなで、手品師の心を話し合ってみましょう。

・*補助発問　　それぞれの考えの底には、どんな気持ちがあるのでしょうか。*
・*補助発問　　少年と約束をしたにもかかわらず、大劇場へ行きたいと思うのはどうなのでしょうか。あまりに勝手ではないですか。*

○　基本発問３（中心発問）

大劇場で手品をしている姿を思い浮かべながらも、懸命に少年の前で手品をしている手品師は、どんな気持ちだったのでしょう。

・*補助発問　　何が手品師を突き動かしたのでしょうか。*
・*補助発問　　人はそこまでできるものなのでしょうか。*
・*補助発問　　「誠実に生きる」とは、どのようなことなのでしょうか。*